自立活動の指導「手順シート」記入の流れ

実態の見直し

①実態把握 P9

子どもを理解するための実態把握（情報収集）をします。

（障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題、本人・保護者の願い 等）

◆できることや得意なことにも目を向け、そのときの状況や手立ての内容等も参考にする。
◆行動観察以外に、本人・保護者からの聞き取り内容や関係機関等からの情報も参考にする。
◆個別の教育支援計画や個別の指導計画の「引継ぎ事項」等の内容も参考にする。

②実態把握の整理 P10

情報収集した内容を自立活動の区分に基づいて整理します。

◆子どもの全体像をとらえるため、自立活動の内容の６区分に即して内容を整理する。
◆心理的、医学的な立場から情報収集したり、福祉施設等から情報収集したりして、実態を多面的に把握する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

③課題の抽出 P11

指導開始時点で課題となることを抽出します。

◆子どもの視点に立ちながら、実態の中から「できること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」などの観点で整理し、課題を明らかにする。

〈書き方１〉
「②実態把握の整理」から、そのまま記入する（全て記入するのではない）。
★指導すべきかどうかの視点で考える。

〈書き方２〉
複数の区分を関連させて記入する。
★課題同士の関連が明らかな場合は、まとめて記入する。

〈書き方３〉
伸ばしていくべき点を記入する。
★できることをさらに高めることで、よりよい生活に繋がるという視点で考える。

④中心的な課題 P12

抽出した課題同士の関連を整理して、中心的な課題を導き出します。

◆抽出した課題の中に、「原因と結果」のように関連しているものに着目する。
◆「原因と結果」以外にも、課題同士が相互に関連しているようなものに着目する。
◆一つの課題の改善が、他の課題の改善にも繋がっていくものに着目する。

目標の見直し

⑤指導目標の設定 P13

中心的な課題等を踏まえ、１年間の長期目標と各学期の短期目標を設定します。

◆長期目標と短期目標とのつながりを持たせる（長期目標を設定した後に、短期目標を考える）。
◆目標は子ども目線で記入し、子どもが聞いて何をするのかが分かるような文章表記を心掛ける。

長期目標（１年間）		
短期目標	１学期	
	２学期	
	３学期	

「何をするかが具体的に書いてある」文章表記が大切です。
「どの場面で、何をどのくらい（回数や時間等）するのか」が書かれてあると、目標がより具体的になり評価もしやすくなります。

⑥指導内容の選定 P14

指導内容に関連する自立活動の区分や項目を選び出します。

◆子どもの得意な認知処理等を支援に取り入れると指導の効果が高まるので、できている面にも着目する。
◆実際の指導を行う際に必要な項目を関連付けるので、空欄となる区分があっても構わない。

（例）

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること	(5) 認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関すること		(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

指導内容の見直し

⑦指導内容の設定 P15, 16

選定した区分や項目を組み合わせながら、具体的な指導内容を考えます。

◆いつ、どこで（どの場面で）、どのような支援をするのかを具体的に記入する。
◆目標を達成するために必要な指導内容を段階的に取り上げるようにする。
◆「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」に明記されている以下の６つの点に考慮する。

㋐主体的に取り組む指導内容　㋑改善・克服の意欲を喚起する指導内容
㋒発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容　㋓自ら環境を整える指導内容
㋔自己選択・自己決定を促す指導内容　㋕自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容

⑧評価 P17, 18

子どもの評価だけでなく、指導内容や支援の手立てについても評価を行います。

◆誰が見ても分かる客観的な記録（どの場面で、どの支援で、どうなったか 等）に基づいて評価を行う。
◆「指導内容は実態に合っていたか、支援の手立ては適切だったか」等の観点で、指導者側の評価も行う。
◆評価を基にして、次年度（来学期）に向けた実態把握や目標、指導内容等の見直し、修正等を行う。